

1 次の文章を読んで下の問いに答えなさい。

葉っぱとの出合いは、私がまだ美大の学生だった頃に遡る。

「この世で一番美しいものをとつてあげよう」「三月月制作に投票し、①その通り

の作品をつくりあげた。それは、無数の②細彩色の目が全身にほついていた巨大な人

型※オジエだったのだけれど、学園祭で発表し、金期中も見事な出来に[A]思

いでわくわくしていた。思わぬ出来事はその後には起き、展示を終え、下宿先の

軒下に『世界で一番美しいもの』を保管していた。二、三日後、大家さんと管理人

のおばさんか血相[B]で訪れた。「真の家の子もが、あの作品を見て涙がこぼ

っているから、なんとかしてほしい。」

③コロカシテイル。この言葉の意味がはじめは理解できなかった。この

世の中で一番美しいものを見て、どうして涙がこぼれたのだろうか。――この疑問は

四六時中まきまき、そのうち何もつづいてしまった。あの作品に対する

友人たちの感想も、ひとりで④賛辞と受け取っていただけで、実はみんな怒り気持

ち悪がっていた。この世間と自分との間にある大きな懸念のせい、それが毎日私を

苦しめた。⑤自分自身の感覚がまったく信じられなくなってしまうのだ。こんな

ことではいけない、と奮起してジョキングを始めた。こんがらがった頭で走る。い

くら走っても、頭の中はずきりしない。四ヶ月経った、春の気配を感じさせる日。

橋のたもと、木々が林立した静かな広い通り。せいせいしながらこの通りまで来

た時、立ち止まりよく見上げたその先に敬聖主はいた。誰々しい葉っぱが、優しい

春の日差しに透け、みなぎる生命力で光り輝いていた。

「美しい。」四ヶ月ぶりに心にすーと入り込んできた感覚、頭の中であつてい

た糸が「瞬のうちにほどけた。この美しさを伝えたい。――この出会いをきつかけ

に、葉っぱをテーマとした作品を作り始めた。でも作れば作るほど、あの新緑の輝

きからは遠のいていくような気がした。⑥葉っぱの門口に立たされ、門前私にさ食

ひたれ続け八年経ったある日、ふと考えた。葉っぱと出合い、証に錯誤を繰り返す

うち、私の中で明確になった言葉がある。葉っぱの精神――この世のひとひとつ

たものはすべて同じ価値があり光り輝く存在である。

この言葉にのっとつて、一枚の葉っぱをありのままに描いてみた。さうだった。恐

る恐るとしてはあるが、ありのままの自分で、ありのままの葉っぱを一枚描いてみた。

なんだこんな簡単なことだったのか。ただありのままに描けばよかつたんだ。⑦自

分はアーストなんだという気持ちで取り組んでいる間は、かたくなに聞かれ

一歩も中に入れてくれなかつた葉っぱの門が、この時少し開かれた。そのすき間が

らへ入つてゆくと、葉っぱが⑧やうと来たねという感じで私の手をひき、確かな

世界を少しずつ見せてくれた。まず、胸を打たれたのは、ひたすら前向きな葉っぱ

の姿勢。へこたれず、めげせず、すくすく生量していく様は、[C]のように心

に響いた。なんだ、そんなことはだいたいとやない、問題ないよ、問題なし。

前進めるのみ、何でもやってみなさい、わからな、やってみなさい、何も変わら

ない。

そして、⑨葉っぱは手厳しい絵画の先生にも怒を蒙った。ナガイ先生の授業は

好きだった。つやっぱい緑に葉脈間がつきりふらんで、鮮やかな※アゼンツル

シドの緑が小気味よくてイカしていた。ケヤキ先生、サクラ先生、ヒノキ先生たち

は、難問を容赦なく投げかけてきた。キミはここまでこの葉脈の神秘、葉の構造に

近づけるかな？ じつして六年くらい経ったある日、奇妙な感覚を感じた。今まで

見えなかつたものが見えてきた。細胞のすみすみまで、語りかけてくるように見え

てきた。虫食い跡や傷跡や病気の葉っぱは神秘が与えた美しい悪夢のように、饒舌

に語りかけてくる。

小さな一枚の葉っぱ、たかが葉っぱなのに実に奥深い世界が広がっている。そし

て、⑩私たちが人間が忘れ去つてはいけない大切なことが、一枚一枚に究明に刻みこ

まれている。葉っぱは、思ひ出して、忘れちゃだめだよ、と今日も私の手をひく。

(木の葉の表現論 藤原寛実 世界文化社)

※ オジエ=作品 ※ アゼンツル=赤紫包

受験番号 氏名

問一 ①「その通りの作品」とはどのような作品か、書きなさい。

問二 ②「隠彩色」の意味に最も近いことはを次から選び、記号で

答えなさい。

ア おびやかな色 イ あでやかな色

ウ おだやかな色 エ さわやかな色

問三 [A] ③「A」にある言葉は次から選び、記号で答えなさい。

ア 心躍る イ 心乱れる ウ 心酔

エ 心傾ける オ 心寄る

問四 [B] ④「B」にある言葉は一語を漢字を用いて書きなさい。

問五 ⑤「コロカシテイル」がカタカナなのはなぜですか。

その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 大家さんが怒って割れるような声を出したから

イ 子どもの言葉がたどたどしかったから

ウ わたしが言葉の意味がわからなかつたから

エ 普通ではない特別な芸術作品に対する言葉だから

問六 ⑥「葉っぱの精神」と同じ意味で使っている熟語を選び、記号で

答えなさい。

ア 踏退 イ 辞書 ウ 許生 エ 辞意

問七 ⑦「自分自身の感覚」とは何に対する感覚ですか、最も適当

なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 友達の気持ち イ 世間の人々の常識

ウ 本当の美しさ エ 子どもの純粋な感受性

問八 ⑧「葉っぱの門口に立たされ、門前私にさ食

ひたれ続け八年経ったある日、ふと考えた。葉っぱと出合い、証に錯誤を繰り返す

うち、私の中で明確になった言葉がある。葉っぱの精神――この世のひとひとつ

たものはすべて同じ価値があり光り輝く存在である。

この言葉にのっとつて、一枚の葉っぱをありのままに描いてみた。さうだった。恐

る恐るとしてはあるが、ありのままの自分で、ありのままの葉っぱを一枚描いてみた。

なんだこんな簡単なことだったのか。ただありのままに描けばよかつたんだ。⑦自

分はアーストなんだという気持ちで取り組んでいる間は、かたくなに聞かれ

一歩も中に入れてくれなかつた葉っぱの門が、この時少し開かれた。そのすき間が

らへ入つてゆくと、葉っぱが⑧やうと来たねという感じで私の手をひき、確かな

世界を少しずつ見せてくれた。まず、胸を打たれたのは、ひたすら前向きな葉っぱ

の姿勢。へこたれず、めげせず、すくすく生量していく様は、[C]のように心

に響いた。なんだ、そんなことはだいたいとやない、問題ないよ、問題なし。

前進めるのみ、何でもやってみなさい、わからな、やってみなさい、何も変わら

ない。

そして、⑨葉っぱは手厳しい絵画の先生にも怒を蒙った。ナガイ先生の授業は

好きだった。つやっぱい緑に葉脈間がつきりふらんで、鮮やかな※アゼンツル

シドの緑が小気味よくてイカしていた。ケヤキ先生、サクラ先生、ヒノキ先生たち

は、難問を容赦なく投げかけてきた。キミはここまでこの葉脈の神秘、葉の構造に

近づけるかな？ じつして六年くらい経ったある日、奇妙な感覚を感じた。今まで

見えなかつたものが見えてきた。細胞のすみすみまで、語りかけてくるように見え

てきた。虫食い跡や傷跡や病気の葉っぱは神秘が与えた美しい悪夢のように、饒舌

に語りかけてくる。

小さな一枚の葉っぱ、たかが葉っぱなのに実に奥深い世界が広がっている。そし

て、⑩私たちが人間が忘れ去つてはいけない大切なことが、一枚一枚に究明に刻みこ

まれている。葉っぱは、思ひ出して、忘れちゃだめだよ、と今日も私の手をひく。

問九 ①「自分はアーストなんだという気持ち」とはどのような

な気持ちですか、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 気負い イ 気取り ウ 気配り エ 気兼ね

問十 ②「やうと来たね」といふ感じ」とはどのような様子ですか。

最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 遅くて困っている様子

イ おきれながらも癒めている様子

ウ 待ち遠しくてたまらない様子

エ 歓迎しては喜んでいる様子

問十一 [C] ③「C」にある言葉は次から選び、記号で答えなさい。

ア 行進曲 イ 応援歌 ウ 練習曲 エ 子歌

問十二 ④「葉っぱは手厳しい絵画の先生にも怒を蒙った」とは

どのようなことを表していますか、最も適当なものを次から選び、記号で

答えなさい。

ア 葉っぱが上手に描けなくて悲しかったこと

イ 葉っぱによって描く力が鍛えられたこと

ウ 葉っぱには近寄りがたい神秘性があること

エ 葉っぱの虫食い跡や傷跡、病気があったこと

問十三 ⑤「私たちが人間が忘れ去つてはいけない大切なこと」とは

どのようなことか、それが書いてある一文を本文からぬき出し、最初

の五字を書きなさい。

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

- 1 二つのコトバに分れる。
- 2 シヤンウからのながめ。
- 3 セイのある行動をとる。
- 4 台風で屋根がハゲんだ。
- 5 ロウホウが屈んだ。

四 次のカタカナの言葉を漢字に直しなさい。

※ 図表化したきた「はつきりしてきた」
(読売新聞「平成を歩く」二〇〇八年五月五日朝刊)
※ サウンドスケープ＝良好な音環境を計画的に作っていくとする考え

だ。
ければ聞き流すしかない。①にきやかで、寂しい「空音」の時代なの
根拠としてしよう。Bの音に苛立ちCの音にこもる。せまな
す動きが広まったのも、望んだ音環境が失われつつあるという実感に
のあり方を考える※サウンドスケープの考え方や、良好な音環境を残
緩やかに受け合う生活音を分かち合う時代は遠くたった。音環境
い。
④音空間を共有したいことへの違和感もいくらか潜むのかもしれない
イターへの通話は迷惑だ。寂しい視線には同じ場所にながら
もまだ個人的な音空間を作り出す。だが電車ではヘッドホンの音もれ
携帯機器の普及で、個人の音空間を持ち歩く人も増えた。携帯電話
図が次第に表顕化してきた」と見る。

果、近隣騒音のように「それぞれ」という考えで参るような④音の問
の大音量。これらに対しては科学的な抑制策がとられてきた。その結
Nさんによると、かつて騒音は量の問題だった。道路や工場など
しかなかったから。

響きと言えなかもしれない。あたり構わぬ大音量はもはや時代錯誤で
どいつ思いついたんだろう。音量はつましい。④平穏的な気配の
って、物売りの音が飛び交うわけでもない。③せめて音楽で道を
その商店街に向かった。今も音楽が流れている。昔の商店街とは違
なるらしい。

する。情報が得られたい、情緒を感じる音でないと聞き流すように
A人が多いのだ。「必要がないからでしよう」とNさんは説明
聞いている人の回答だと、肯定的な印象が目立つ。ところが実際は
送る聞いたことがないと答えた。

さんが調査したところ、利用、通過経験のある人のうち、約65%が放
成13年、福島大学大学院生だったDさんと准教授のN
場所ではGやYへ、情報を受け取っている福島市内の商店街。平
深い調査がある。

流れる。それら①現実の音と②人が認知する音はかなり違ふ。興味
街はにぎやかだ。車が行き交い、駅にはサウンドスケープに音楽が

二 次の文章を読んで下の問いに答えなさい。

問一 ①「現実の音」②「人が認知する音」とはそれぞれどのような
音ですか。最も適当なものを次から選択、記号で答えなさい。

- ① ア 日常生活の中で生まれる音
- イ 実験にその場に存在する音
- ウ 自然に発生する音
- エ 意味を持つた音

- ② ア 人がわざわざ作り出す音
- イ 人が無意識のうちに耳に入る音
- ウ 人がききと聞いている音
- エ 人が心地よいと感じる音

問二 Aにあってはまる言葉を次から選択、記号で答えなさい。

- ア 気にとめていない
- イ 気がかかっている
- ウ 気を持たせている
- エ 気に離れている

問三 ③「せめて音楽で道を」④「思いつく」とは

- 1 誰の思いですか。書きなさい。

2「どのような思いですか。最も適当なものを次から選択、記号で答えなさい。

- ア 音楽がないと道がなくてよくない
- イ 道がながい道を音楽で補いたい
- ウ 道がながいので静かな音楽を流そう
- エ 道がながく音楽が引き立つてよい

問四 ④「平穏的な気配」とは具体的にどのようなことですか。十字以内で書
きなさい。

問五 ⑤「音の問題」とはどのようなことですか。それを説明した次の文の
() にあってはまることばを選択、記号で答えなさい。

「音の問題とは () 音は騒音である」という意味です。」

- ア 聞こえていない
- イ ゆめかいた
- ウ 情報が行きわたらない
- エ 情報があふれている

問六 ⑥「音空間を共有したい」とはどのようなことですか。本文の内容を
ふまえて次の (1) (2) を補って文を完成せよ。また (3)
にあってはまるものをア～エから選択、記号で答えなさい。

「電車のなかで (1) たり、 (2) たりするもつぱ (3) して」

- ア 個人的な音が他人に聞こえないように配慮する
- イ 公共の場所では個人的な音を聞くことをひかえる
- ウ 個人的な音が他人に迷惑をかけていると気づかない
- エ 周囲の音とは関係なく個人的な音の世界を持つ

問七 B、Cにあってはまることばを次から選択、記号で答えなさい。

- ア 空間
- イ 現実
- ウ 自分
- エ 時代
- オ 機械
- カ 街

問八 ⑦「にきやかで、寂しい」とはどのようなことですか。最も適当なものを
次から選択、記号で答えなさい。

- ア さまざまな音が存在するが、どの音も人の心を打つ力がない。
- イ 多種多様な音が聞こえるが、どれも本質は同じような音である。
- ウ どんなに音があっても、多くの人は関心を持っていない。
- エ 音があふれてきて共有しきれず、人々は孤独を求めるようになる。

問九 「幸福な音空間」とはどのようなものですか。商店街を例にして具体的に
に説明しなさい。